

施設紹介

関連するSDGs



「安全の部屋」、「品質の部屋」の開設

Opening of "Safety Promotion Room" and "Quality Promotion Room"

持田 保成
Mochida Yasunari
森 光成
Mori Mitsunari

田中 義久
Tanaka Yoshihisa
加村 勉
Kamura Tsutomu

概要

当社は、安全意識と品質意識の向上を目指した「安全の部屋」、「品質の部屋」を開設した。本稿では、「安全の部屋」「品質の部屋」の概要を紹介する。

Synopsis

We opened the "Safety Promotion Room" and "Quality Promotion Room" with the aim of improving safety awareness and quality awareness. This paper introduces the overview of the "Safety Promotion Room" and "Quality Promotion Room".

1. はじめに

当社は、安全意識と品質意識の向上を目指した「安全の部屋」、「品質の部屋」を開設した。本稿では、「安全の部屋」「品質の部屋」の概要を紹介する。

2. 「安全の部屋」の開設

当社は安全管理基本方針「安全は全てに優先する」のもと、「三悪災害（運搬・感電・転落災害）ゼロ」「安全を意識する人づくりと仕組みづくり」を重点活動として、「決める・守る・チェックする」の徹底と安全風土の再構築に取り組んでいる。

この中で、当社グループ従業員の安全意識の啓発、当社における「安全の取組み」の歴史を学ぶことを目的として、当社研修施設「日新アカデミー研修センター」内に「安全の部屋」を開設した。

「安全の部屋」では、「過去の重大災害、重篤災害を忘れない・風化させない」、「過去の災害を教訓に同じ災害を繰り返さない」をコンセプトとし、気づきから自ら学び、安全について考える力を伸ばすことができるよう、①社長安全メッセージ、②災害発生年表（重大災害、安全活動の歴史）、③重篤災害事例、④安全の誓い（絵馬）を展示している。

2. 1 「安全の部屋」の展示内容

「安全の部屋」に展示している各内容について、簡単に紹介する。

2. 1. 1 社長安全メッセージ

全員参加による安全活動の推進に向け、社長のメッセージを掲げている（図1）。



図1 「安全の部屋」社長安全メッセージ

2. 1. 2 災害発生年表(重大災害、安全活動の歴史)

当社で発生した国内外別の災害件数の推移を、年表形式のパネルで展示している。また、死亡、重篤災害件数も年表に表示している。

2. 1. 3 重篤災害事例

1970年代以降、構内作業・工事並びに現地工事で発生した死亡、重篤災害事例を年代別にパネルで展示している(図2)。



図2 「安全の部屋」(展示エリア)

2. 1. 4 安全の誓い(絵馬)

自らの安全活動への決意を絵馬として掲げるとともに、絵馬を見た方々には注意喚起を促すことを目的としている。絵馬は1年間展示をしている。

2. 2 安全成績のトレンドデータ

当社では、これまで安全意識向上にむけて「安全の部屋」含め、災害からの学び・改善を通じ、さまざまな活動を展開してきた。これら活動が、2018年度以降、労働災害度数率(注1)で当社が全製造業を大きく下回ることに貢献している。安全成績を表す労働災害度数率の推移を図3に示す。

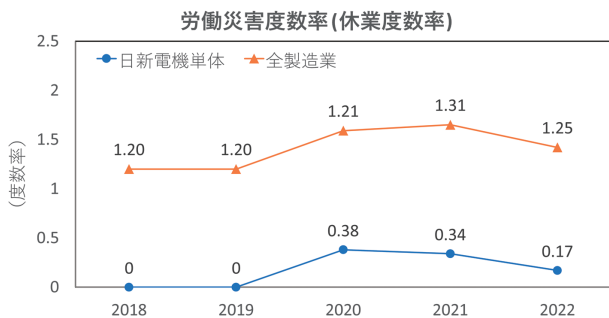


図3 労働災害度数率の推移安全成績

(注1) 労働災害度数率 = (労働災害による死傷者数 ÷ 延べ実労働時間数) × 1,000,000

2. 3 「安全の部屋」の活用と今後

当社では、「安全の部屋」を社員だけでなく、当社の各ステークホルダーにも開放し、安全について意見交換する場として活用している。

また、当社では、2019年から危険体感教育にも取り組んでおり、今後は当該教育に「安全の部屋」を組み合わせた研修を行うことで、安全作業の重要性をあらためて認識してもらうとともに、従業員ひとりひとりの危険感受性、危険慣行性の向上に努め、当社グループの災害撲滅を目指していく所存である。

3. 「品質の部屋」の開設

当社は、品質方針の中で「品質マネジメントシステムの継続的改善に努め、効果的に機能させることにより、顧客満足の向上を目指します。」というスローガンを掲げ、品質の維持・向上に努めている。

この活動の一環として、過去の失敗を財産とし、現在はもとより将来にわたって従業員ひとりひとりが継続的に学び続ける環境が必要、との考えのもと、2022年4月、「日新アカデミー研修センター」内に「品質の部屋」を開設した(図4)。



図4 品質の部屋

「品質の部屋」では、継続的に学び続けるために、“ほんのちょっとしたことが、大きな失敗に繋がる”、“その事例(実物含む)を示すことで、品質の重要性を実感してもらう”、“そのことによって、従業員ひとりひとりの日々の業務遂行に気づきを持ってもらう”をコンセプトとしており、①失敗事例、②当社グループの品質への取組みの基本および過去より手掛けた品質向上対策例、③これら取組みの成果としての品質成績のトレンドデータを展示している。

3. 1 「品質の部屋」の展示内容

「品質の部屋」に展示している各内容について、簡単に紹介する。

3. 1. 1 失敗事例

過去の事例を掲示し、同様の事故を未然に防止できるようにしている。掲示している失敗事例9件及び現物展示3件の詳細は以下のとおりである。

事例1：現地でケーブルを誤切断したことにより、復電時に短絡

事例2：工場から出荷時に、不要物が混在したことにより、受電時に短絡
(現物展示あり)

事例3：現地で施工不備があり、雨水が浸入したことで不要な保護動作から停電
(現物展示あり)

事例4：工場内での工程管理不備による漏油

事例5：長納期品の手配不備による納期遅延

事例6：撤去すべき補強金具の残存により受電時に短絡 (現物展示あり：図5)

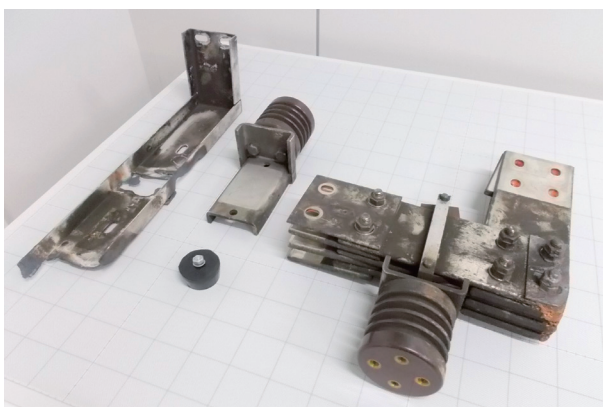


図5 短絡で損傷した補強金具と導体

事例7：現地での改造時に配線に不備があり、点検時に異常電圧を確認

事例8：現地点検作業での誤操作により停電

事例9：製作仕様の変更処置不備による再製作

3. 1. 2 品質向上対策例

品質向上に向けて、これまで実施してきた対策例を展示している。展示している対策例は以下のとおりである。

対策例1：経営層と事業部間での個別報告会の実施
(仕損じ低減/クレーム低減)

対策例2：3H活動^(注2)の冊子を全社員に配布

対策例3：安全・品質強化プロジェクトと銘打った「決める・守る・チェックする」の管理徹底

対策例4：失敗学の考え方を導入

対策例5：品質保証度の考え方を導入

3. 1. 3 品質成績のトレンドデータ

当社では、品質成績を無償修理費等の失敗コストで評価している。

「品質の部屋」等、各種取組みの成果として、2012年度の失敗コストを100としたとき、2022年度の実績は25となっており、「品質の部屋」は品質成績の向上に寄与している。

これまでの品質成績の実績の推移と2023年度、2025年度の目標を図6に示す。

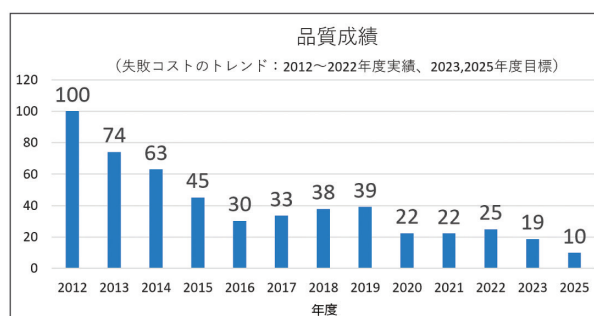


図6 品質成績の実績の推移

3. 2 「品質の部屋」の活用と今後

「安全の部屋」と同様に、「品質の部屋」でも、当社ご訪問の顧客はじめ各ステークホルダーの方々に見学いただいている。これは、当社の「失敗は失敗として、目をそらさずに真摯に受け止め、失敗を糧として学び続けている」ことの意味表明でもある。

「品質の部屋」は開設より1年半が経過し、その間、多くの見学者を受け入れてきた。しかしながら、「品質の部屋」はその目的上、活用してこそ価値が生じるものである。図6に示すとおり、2025年には失敗コストを2012年対比で1/10にする計画であり、当社グループとして、「品質の部屋」の積極的な活用促進と、継続的な内容の見直しを図っていく所存である。

(注2) 3H活動 = 「はじめて、変更、久しぶり」の3つの頭文字Hからとった活動のことを示し、3Hをキーワードにして問題を事前に抽出し対処することで、不具合を未然に防止することを目的にしている。」

当社は、従業員ひとりひとりが品質の重要性を学び続けることで、今後とも顧客に安心と信頼をお届けできる製品・サービスの提供を継続していく所存である。

■ 4. おわりに

開設した「安全の部屋」、「品質の部屋」を活用することで、当社従業員をはじめ当社の各ステークホルダーの安全意識、品質意識の向上を図り、社会からさらなる信用・信頼を得る企業風土の醸成に努める所存である。

✎ 執筆者紹介



持田 保成 Mochida Yasunari
生産技術本部
安全環境部長



田中 義久 Tanaka Yoshihisa
生産技術本部
安全環境部 参与



森 光成 Mori Mitsunari
生産技術本部
品質保証統括部長



加村 勉 Kamura Tsutomu
生産技術本部
品質保証統括部 参事